

# 万葉かるた

だざいのそち おおともとのたびと ぱいか えん  
1300年前、当時の大宰帥・大伴旅人が催した「梅花の宴」の情景  
を描いた万葉集から元号「令和」が生まれました。令和の都だざいふ  
に息づく万葉の文化に親しんでもらえるように、梅花の歌三十二首  
から作られた「万葉かるた」の一部を付録にしました。

よろづよ  
万代に 年は来経とも  
梅の花 絶ゆることなく  
咲き渡るべし

卷五・八二〇

口訣 永くに年は来て過ぎて行くとも  
梅の花は絶えるいとなく咲き續  
けるいとでやううつ。

あをによし 奈良の都は  
咲く花の にほふがごとく  
今盛りなり

卷二·三一八

口訳 奈良の都は、咲く花が美しく、薫る  
ように今が真つ盛りである。

我が園に梅の花散る  
久方の天より雪の  
流れ来るかも

卷五·八二一

口訣 わが家の庭に梅の花が散つて  
る。天から雪が流れて來るのであ  
る。うか。

# 大宰府万葉会

万葉故地として名高い筑紫に居住することを誇りとして、『万葉集』の歌や背景にある歴史・文化の幅広い学習を通じて、地域内外への情報発信や会員同士の親睦と教養の向上に努めています。

月1回の万葉集講座のほか、市内の「万葉歌碑めぐり」や地域の小中学校への出前講座、2月初旬の「梅花の宴」再現（P30に掲載）など、地域に密着した活動をしています。全国のイベントにも積極的に参加して、万葉文化を普及・太宰府・筑紫地区をPRしてきました。

着用する万葉衣装は、これまで役員10人が100着以上を手作り。文化の伝承のため、万葉ゆかりの地域イベントにも貸し出しています。

万代に 年は来経とも  
梅の花 絶ゆることなく  
咲き渡るべし



あをによし 奈良の都は  
咲く花の いほふがごとく  
今城のなみ



我が園にて 梅の花散る  
久方の 天より雪の  
流れ来るかも

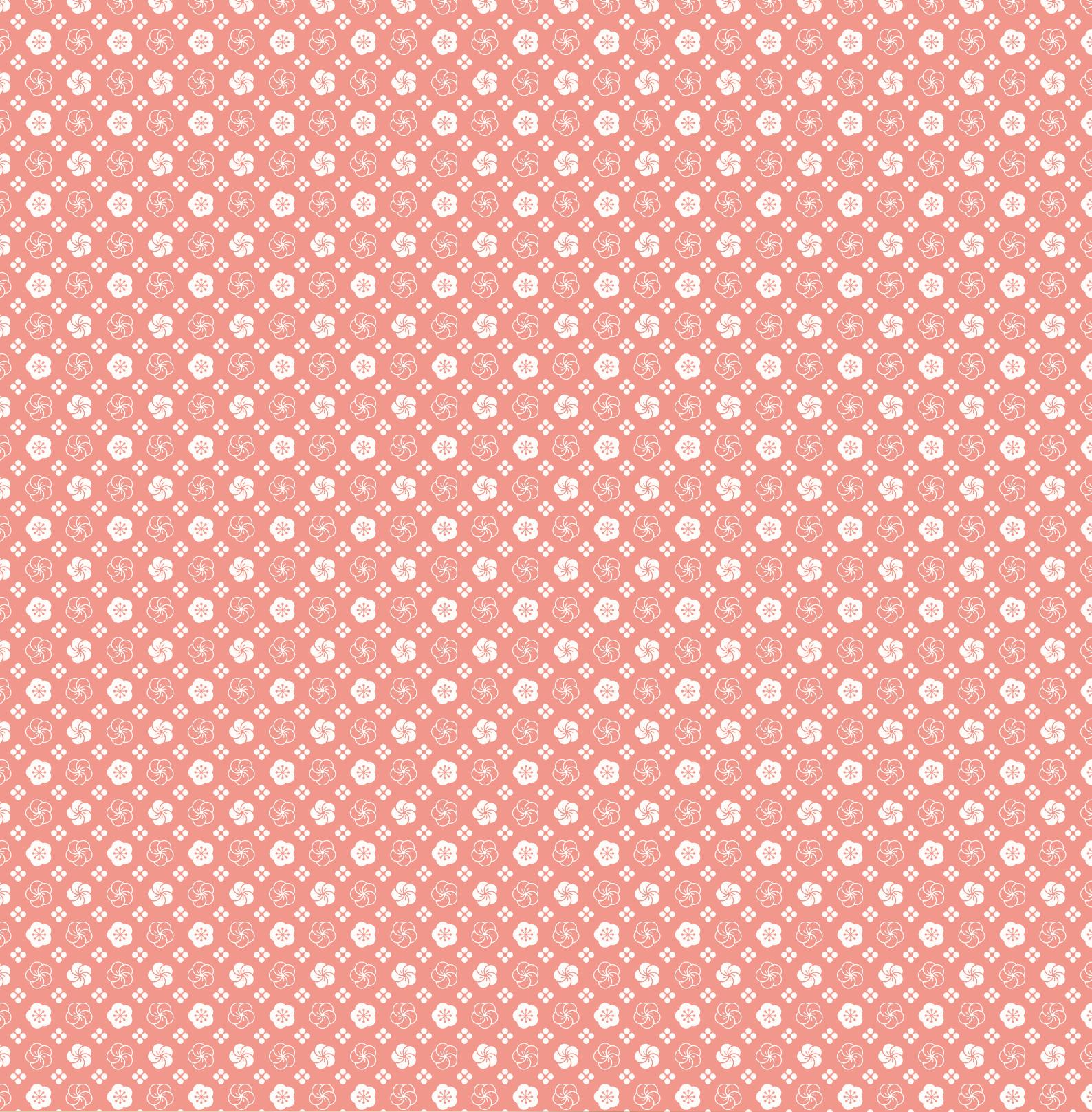


## 万葉文化の魅力を語る まつお こ 代表・松尾セイ子さん

万葉かるた、  
ゆきしちちが監修! ましむ!



大宰府万葉会の皆さん



令和萬葉館（れいわまんようかん）に遊びに来てください！

